

2016年 4月 30日

助成事業実施報告書

団体名 新冠こたにがわ学園

代表者・役職名 氏名 理事長 小谷川 元



▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

学園環境整備事業

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

平成16年7月13日 子育て・教育支援を展開する 特定非営利活動法人 誠心会 設立、「同年9月1日「こたにがわ学園」を自主運営で開園しました。平成20年10月31日 第2種社会福祉事務所の届出をして、児童自立援助ホームとして再出発しました。平成22年10月1日 新冠町立若園小学校を再利用し、児童自立援助ホーム「新冠こたにがわ学園」開園しました。現在の会員数16名。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

一日も早く、冬季にも子ども達が安心して生活できる環境を整えることが第一の目的であります。開園4年を迎えて20歳を迎え卒園する児童が増し、入所人数の減少に伴い措置費も減少されました。しかし、職員を削減するわけにはいかず、運営するための資金確保が難しい状況です。是非お力添えを賜りまして、子ども達の生活環境を整えたいと考えて今回申請させていただきました。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

施設の敷地は、前述の通り約8,000坪以上を有しております。冬季になりますと敷地内は、約50cm程度の積雪があり、除雪をしなければ生活できません。現在では、その機械がないため、雪かきスコップなどを使用し、人力で玄関前だけ除雪をしております。そこで、玄関前はもちろんのこと学園内の生活に必要な道路や駐車場、避難経路等除雪するためには、除雪機が必要です。

また、今まであまり活用されてなかった部屋を冬季に使用するため、ストーブが必要となりました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPUCT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

今年の冬は暖冬のため、例年より根雪になる時期が1月になった事、1度に50cm程度積雪するどか雪が1回もなかった事、3月上旬には雪解けた事等暖冬により、積雪が記録的に大変少ない冬となりました。大変生活しやすかった反面、試運転程度しか活用することがありませんでした。しかし、今年以降除雪機は必須のため、駐車場や避難路の確保等に活用させていただきます。

また、今年は職員研修の際にストーブを活用させていただきました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

冬季の積雪状況によって使用する頻度は年によって異なります。北海道の中で一番積雪が少ない地域といっても駐車場や避難路の確保のためには、除雪機が必要です。今後、そのような形で使用を進めると同時に、子ども達が近隣の橋の除雪をする際にも活用し、地域との交流を図っていきたいと思います。

また、自立が近付いた子ども達の生活の場や、月や星を望遠鏡で見る観望会等の行事、職員の使用等にストーブを使う計画です。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり ・ 特になし

